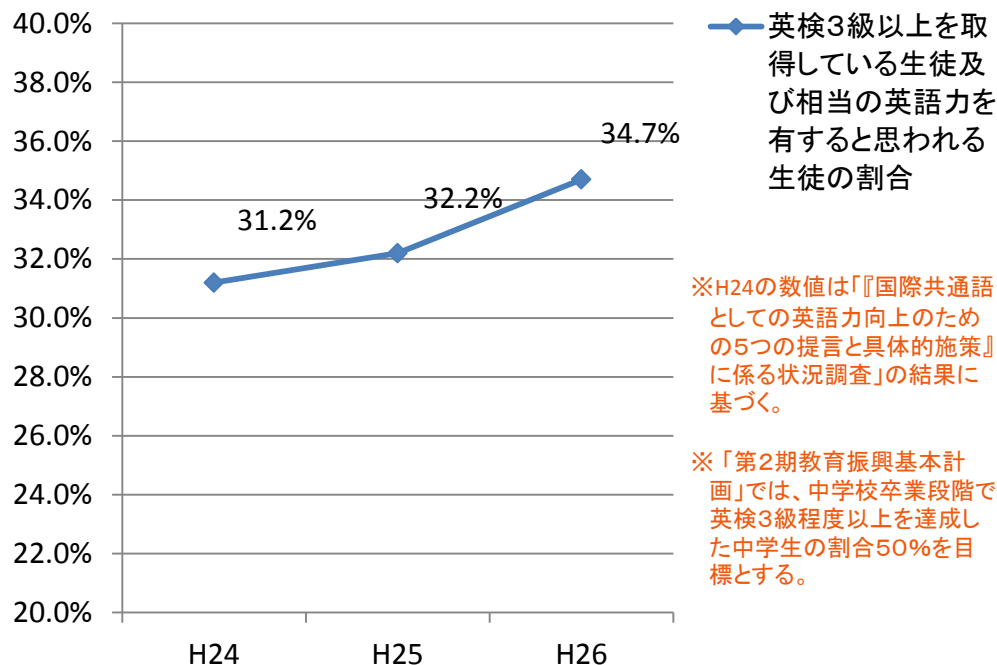


## <中学校>

### 中学生の英語力の状況

- 中学校第3学年に所属している生徒のうち、英検3級以上を取得している生徒は18.4%で、平成25年度の16.5%から1.9ポイント上昇している。
- 英検3級以上を取得してはいないが、相当の英語力を有すると思われる生徒は16.3%で、平成25年度の15.7%から0.6ポイント上昇している。
- 両者を合わせると34.7%となり、平成25年度の32.2%から2.5ポイント上昇している。

### 中学生の英語力の状況

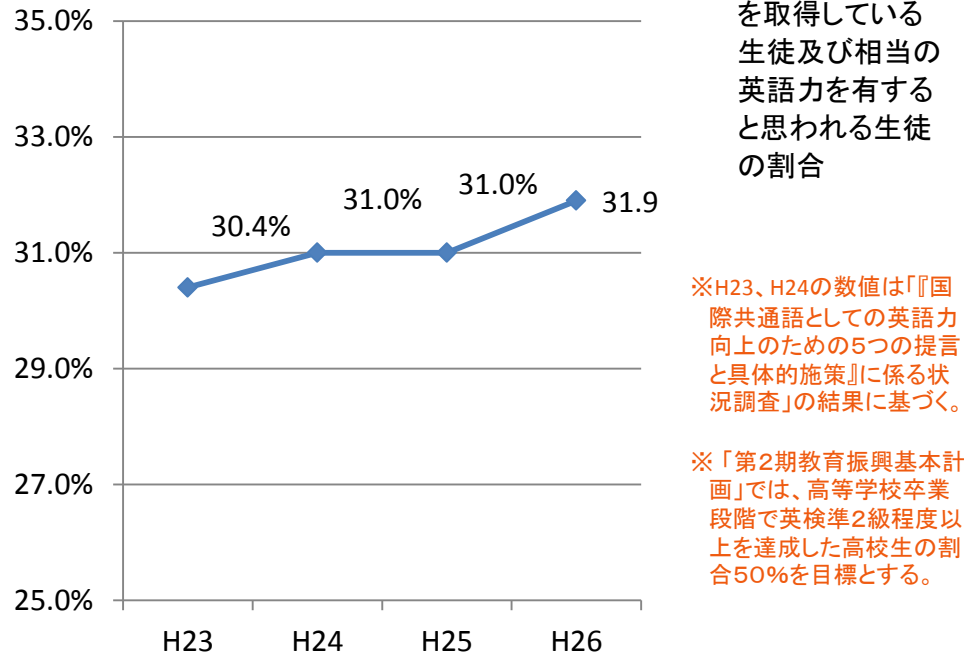


## <高等学校>

### 高校生の英語力の状況

- 高等学校第3学年に所属している生徒のうち、英検準2級以上を取得している生徒は11.1%で、平成25年度の11.0%から0.1ポイント上昇している。
- 英検準2級以上を取得してはいないが、相当の英語力を有すると思われる生徒は20.8%で、平成25年度の20.0%から0.8ポイント上昇している。
- 両者を合わせると31.9%となり、平成25年度の31.0%から0.9ポイント上昇している。

### 高校生の英語力の状況



(参考) 平成26年度中学3年生の英語力について (アンケート調査より)

英検3級程度 (CEFR: A1レベル上位) の生徒が約3割

英検3級程度以上 (CEFR: A1レベル上位) の公立中学校3年の生徒数について教育委員会を通じてアンケートを実施

23年度	24年度	25年度	26年度
30%	31%	31%	35%

【中学校及び中等教育学校 (前期課程)】

	中学校第3学年に所属している生徒数…(a)	(a)の内、英検を受験したことがある生徒数…(b)	(b)の内、英検3級以上を取得している生徒数…(c)	(a)の内、英検3級以上相当の英語力を有すると思われる生徒数 [(c)以外]…(d)	(c)と(d)の計
生徒数及び割合	1,078,270人 (1,093,466人)	356,841人 (346,949人)	198,182人 (180,637人)	175,417人 (171,414人)	373,599人 (352,051人)
	((a)に占める割合)→	33.1% (31.7%)	18.4% (16.5%)	16.3% (15.7%)	34.6% (32.2%)

注) 「英検3級以上相当の英語力を有すると思われる生徒数」とは、英検3級以上は取得していないが、相当の英語力を有していると英語担当教員が判断する生徒の人数を指す。

出典: 「英語教育実施状況調査」 (H26年)

# 平成26年度高校3年生の英語力について（アンケート調査より）

英検準2～2級程度（CEFR：A2～B1レベル）の生徒が約3割

英検準2級～2級程度以上（CEFR：A2～B1レベル）の公立高校3年の生徒数について教育委員会を通じてアンケートを実施

23年度	24年度	25年度	26年度
30%	31%	31%	32%

## 【高等学校及び中等教育学校（後期課程）】

	高等学校第3学年に所属している生徒数…(a)	(a)の内、英検を受験したことがある生徒数…(b)	(b)の内、英検準2級以上を取得している生徒数…(c)	(a)の内、英検準2級以上相当の英語力を有すると思われる生徒数[(c)以外]…(d)	(c)と(d)の計
普通科等	707,511 人 (699,313人)	230,300 人 (228,184人)	74,141 人 (72,922人)	146,465 人 (139,155人)	220,606 人 (212,077人)
	((a)に占める割合)→	32.6% (32.6%)	10.5% (10.4%)	20.7% (19.9%)	31.2% (30.3%)
英語教育を主とする学科	9,300 人 (7,699人)	6,967 人 (6,493人)	5,172 人 (5,021人)	2,845 人 (2,099人)	8,017 人 (7,120人)
	((a)に占める割合)→	74.9% (84.3%)	55.6% (65.2%)	30.6% (27.3%)	86.2% (92.5%)
合計	716,811 人 (707,012人)	237,267 人 (234,677人)	79,313 人 (77,943人)	149,310 人 (141,254人)	228,623 人 (219,197人)
	((a)に占める割合)→	33.1% (33.2%)	11.1% (11.0%)	20.8% (20.0%)	31.9% (31.0%)

注)「英検準2級以上相当の英語力を有すると思われる生徒数」とは、英検準2級以上は取得していないが、相当の英語力を有していると英語担当教員が判断する生徒の人数を指す。

# 児童生徒の英語に対する意識

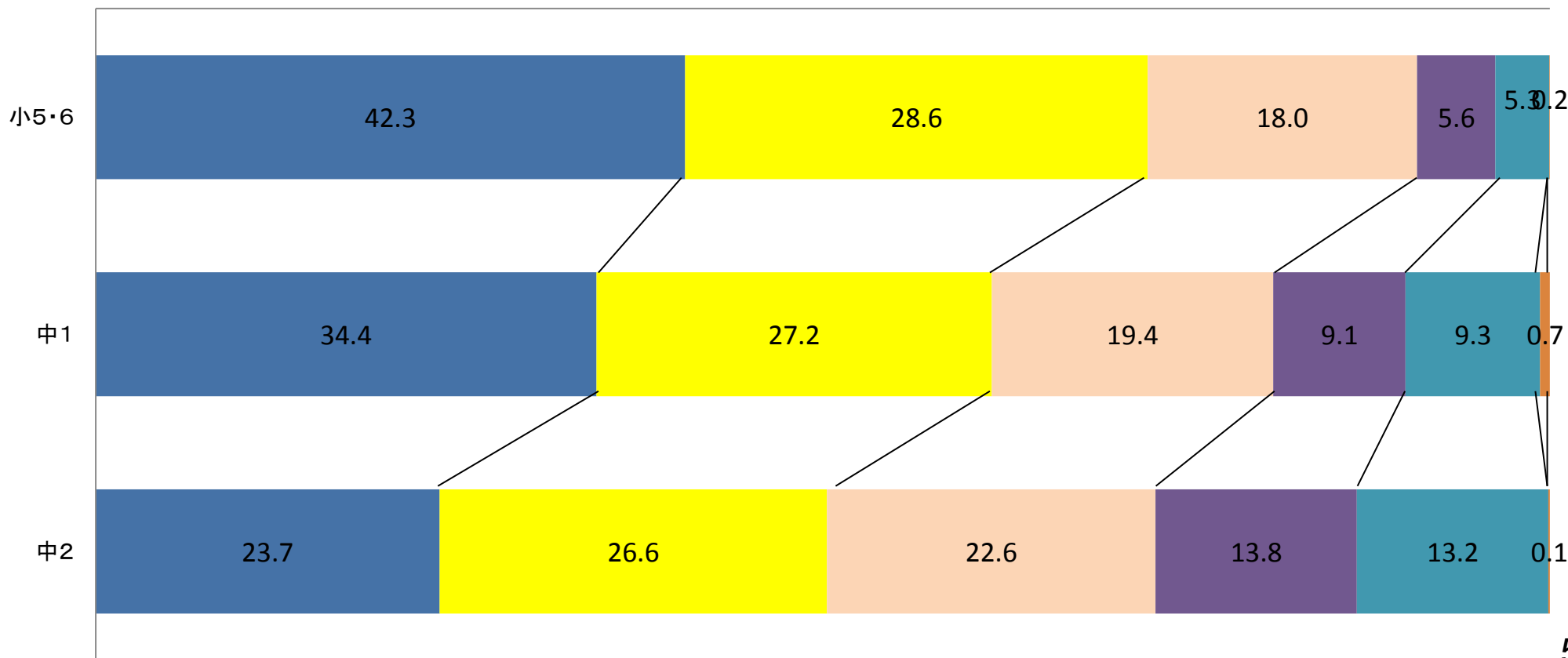
## 英語に対する意識

○ 小学校5,6年生の70.9%、中学1年生の61.6%、中学2年生の50.3%が「英語が好き」と回答。

Q. あなたは、英語が好きですか。(単一回答)

■好き ■どちらかといえば好き ■どちらともいえない ■どちらかといえば嫌い ■嫌い ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



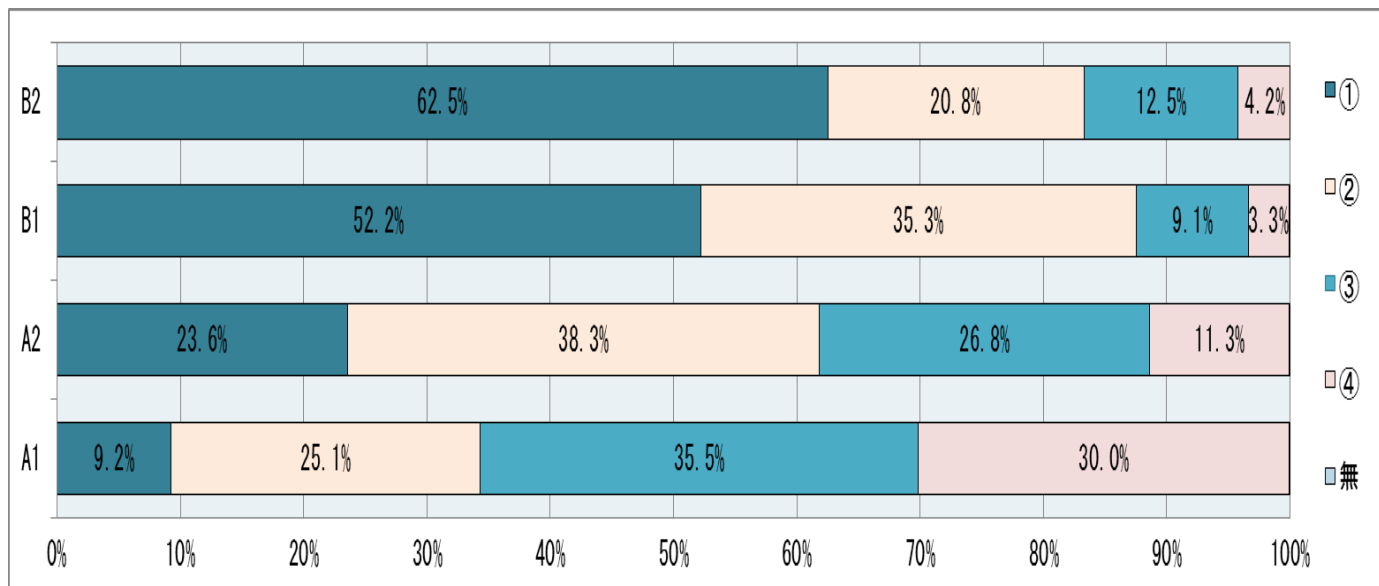
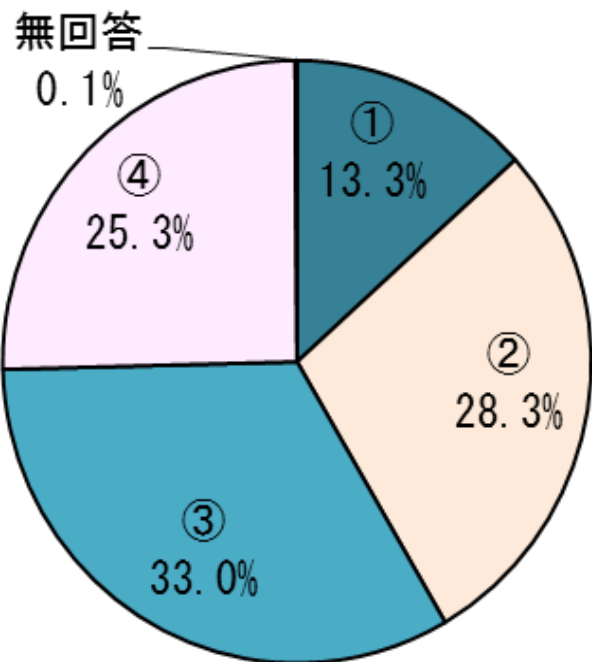
# 参考：英語学習に対する高校3年生の意識

## 生徒の英語学習に対する意識①

○英語が好きではない（選択肢③④）との回答が半数を上回る。特にA1レベルにおいて顕著（公立）。

問 英語の学習は好きですか。最も当てはまる選択肢を1つ選んでください。

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない



※ 「読むこと」のテスト結果とのクロス

# 小学校外国語活動(5, 6年生)の成果・効果について

平成23年度より、小学校高学年(5, 6年生)に外国語活動(週1コマ)を導入後、

○児童生徒:小学生の72.3%(71.7%)が「英語の授業が好き」、91.5%(91.5%)が「英語が使えるようになりたい」、中学1年生の8割以上が、小学校の外国語活動で行った「アルファベットを読むこと」や「英語で簡単な会話をする」が「中学校で役立っている」と回答。

○小学校教員:導入前と比べ、高学年児童に「成果や変容がみられた」と感じる教員が76.6%(76.5%)

○中学校教員:導入前と比べ、中1の生徒に「成果や変容がみられた」と感じる教員が65.3%(77.8%)

その変容として、外国語によるコミュニケーションへの積極的な関心・意欲・態度のみならず、英語を聞いたり話したりする力もついてきていると挙げている。

(出典:平成26年度小学校外国語活動実施状況調査)

※上記( )内の数値は、H23,24実施の調査結果

## 【現状】

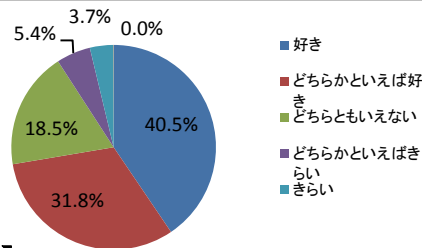
**目標:**外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。



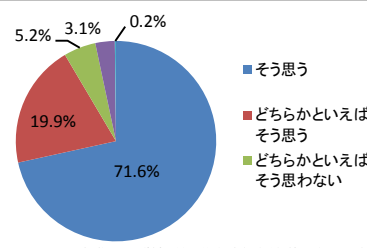
## 【成果】

○ 外国語活動に肯定的な児童が多い。

Q 英語の授業は好きですか



Q 英語が 使えるようになりたいですか



出典:小学校外国語活動実施状況調査(H24年)

## 【課題】

○ 中学1年生の約8割が、小学校で「英単語・文を読む」「英単語・文を書く」ことをもってしておきかかったと回答。

○ ①ALT等と打合せや教材研究をする時間の確保、②外国語活動の指導力、指導力向上のための研修機会が不十分であると感じている。

◆ 中学1年生は、小学校外国語活動の授業で学んだことが中学校の英語の授業で役だったと考えている。特に「話す」「聞く」ことで役立ったと回答。

	構成比
英語で簡単な会話をする	82.8%(80.5%)
英語の発音を練習すること	75.8%(73.7%)
友だちや先生などが英語で話しているのを聞くこと	73.2%(71.7%)
英語で自分のことや意見を言うこと	55.5%(53.9%)
英単語を読むこと	72.9%(68.4%)
英語の文を読むこと	60.8%(53.3%)

出典:平成26年度小学校外国語活動実施状況調査(H26年)  
※( )内の数値は、H24実施の調査結果

## ◇東京都における小学校外国語活動の成果

### 東京都中学校英語教育研究会より

- 小学校外国語活動の影響で臆することなく、コミュニケーションができる生徒が増加
- 小学校外国語活動の効果で、音声に慣れている。
- 低・中学年で週2時間外国語活動を行っている地区では中学に入った段階で文字が読める・書ける。

(参考)主な課題

- 中学校入学以前に、「英語は苦手」と感じる生徒がいる。

### 東京都A区より

- 小学校外国語活動の影響で臆することなく、コミュニケーションができる生徒が増加
- コミュニケーションへの関心・意欲・態度の高まり
- 小学校外国語活動の効果で、音声に慣れている。

# 小学校外国語活動(5, 6年生)の成果・効果について (中学1年生対象調査結果より)

出典: 小学校外国語活動実施状況調査(H26) 小学校5, 6年児童約2万人、中学校1・2学生徒約2万人、小学校管理職・学級担任、中学校管理職・外国語科担当教員それぞれ約3千人を対象に調査

## 小学校外国語活動が中学校でどのように役立ったか (中1)

- 「小学校の外国語活動で学んだことの中で、中学校の英語の授業で役に立ったこと」として、  
 生徒の88.8%が「アルファベットを読むこと」(86.8%)、  
 83.9%が「アルファベットを書くこと」(80.7%)、  
 82.8%が「英語で簡単な会話をする事」(80.5%)、  
 75.8%が「英語の発音を練習すること」(73.7%)、  
 と回答。

( )内は、24年度調査結果

## 小学校の外国語活動でもっと学習しておきたかったこと (中1)

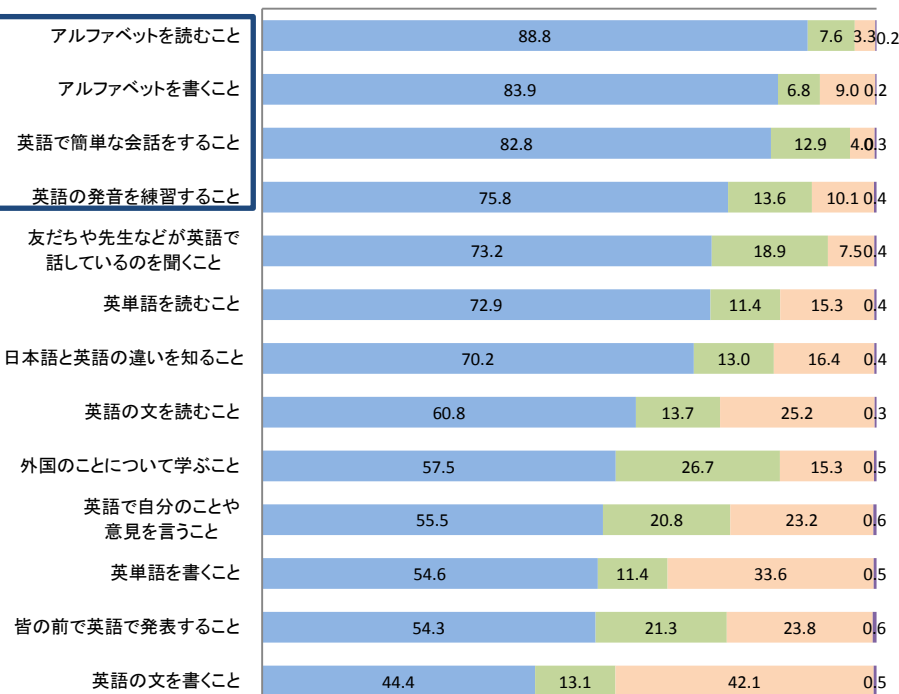
- 「小学校の外国語活動でもっと学習しておきたかったこと」として、  
 生徒の83.7%が「英単語を書くこと」(81.7%)、  
 80.9%が「英語の文を書くこと」(78.6%)、  
 80.1%が「英単語を読むこと」(77.9%)、  
 79.8%が「英語の文を読むこと」(77.6%)、  
 と回答。

( )内は、24年度調査結果

Q. 小学校の英語の授業で学んだことの中で、中学校の英語の授業で役に立ったことはありますか。(単数回答)

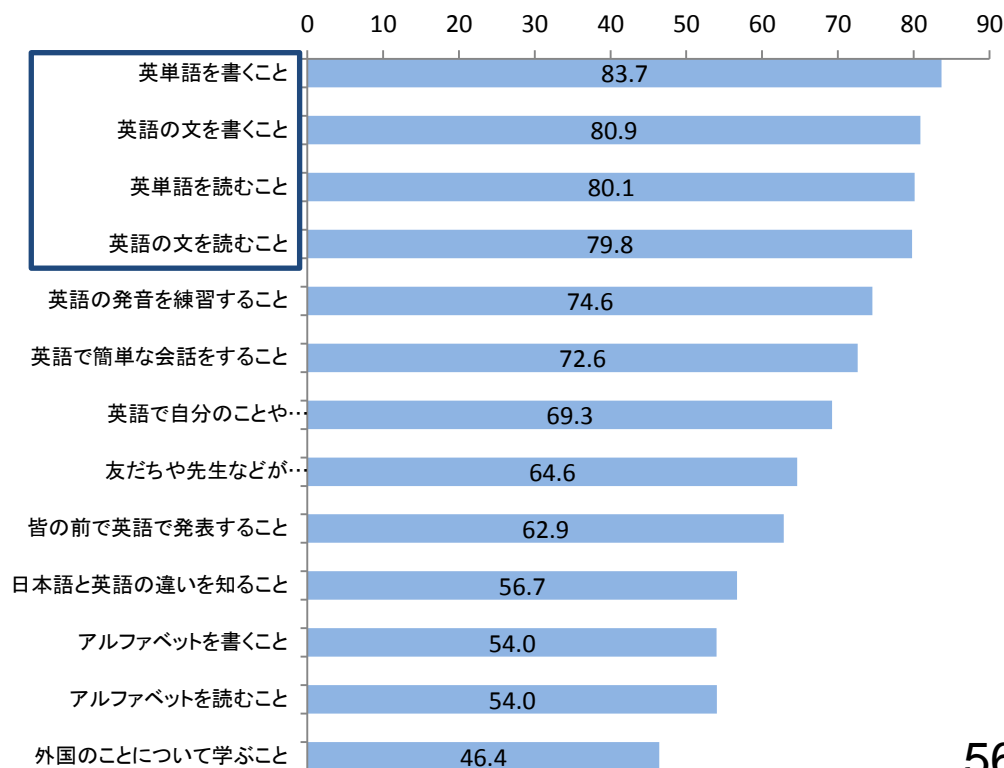
■役に立った ■役に立たなかった ■小学校でやっていないと思う ■無回答

0% 20% 40% 60% 80% 100%



Q. 以下の項目は、小学校の外国語活動でもっと学習しておきたかったと思いますか。

※「そう思う」「そう思わない」「無回答」のうち、「そう思う」と回答した割合



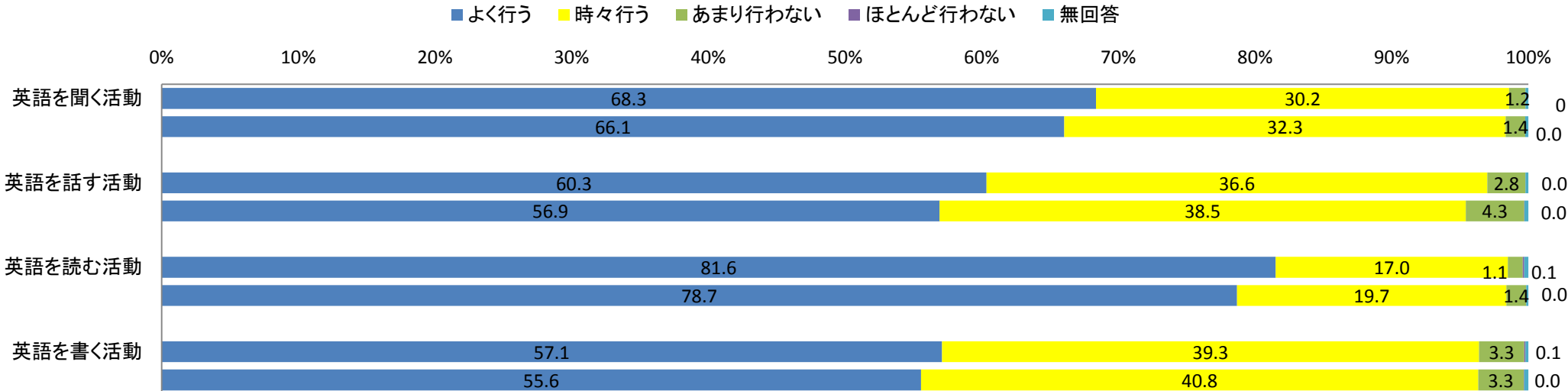
# 中学校外国語科担当教員の外国語科指導状況

## 授業における言語活動の指導①

○ 「聞く活動」66.1% (68.3%)、「読む」78.7% (81.6%) に比べ、「書く活動」55.6% (57.1%)、「話す活動」56.9% (60.3%) の割合がやや低くなっている。

( )内は、前回調査結果

Q. あなたの英語の授業において、1つの単元の中でそれぞれの活動をどの程度行っていますか。(単数回答)

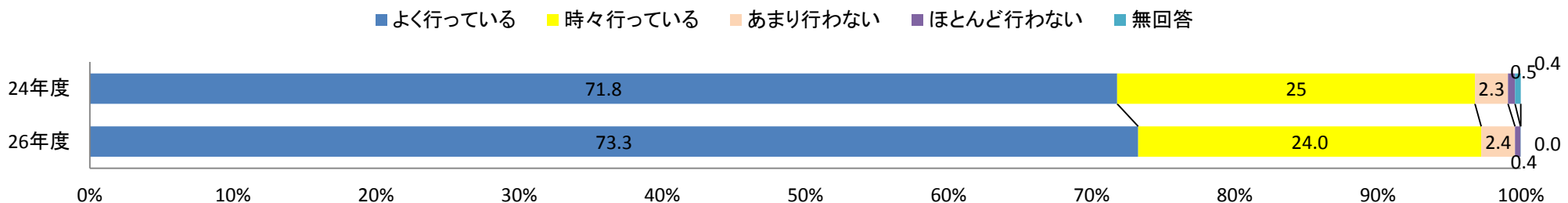


上段：H24年度調査 下段：H26年度調査

## ペアワーク・グループワークの実施状況

○ 97.3% (96.8%) の教員がペアワークやグループワーク「よく行っている、時々行っている」と回答。

Q. あなたの英語の授業において、生徒にペアワークやグループワークをどの程度させていますか。(単数回答)





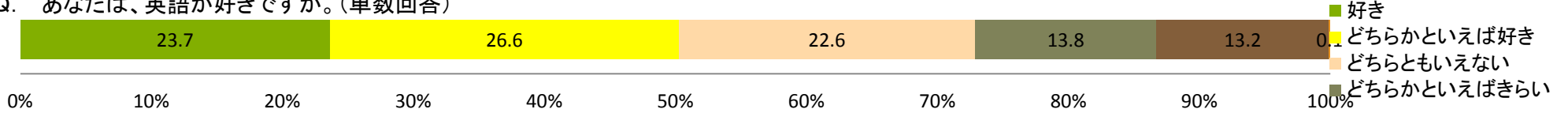
# 中学校2年生の外国語科に対する意識

「平成26年度 小学校外国語活動実施状況調査結果」

## 英語に対する意識（中2）

○ 生徒の50.3%が「英語が好き、どちらかといえば好き」と回答。

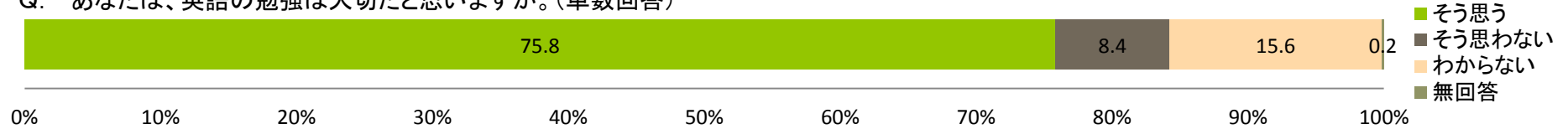
Q. あなたは、英語が好きですか。（単数回答）



## 英語の勉強に対する意識（中2）

○ 生徒の75.8%が「英語の勉強は大切だと思う」と回答。

Q. あなたは、英語の勉強は大切だと思いますか。（単数回答）

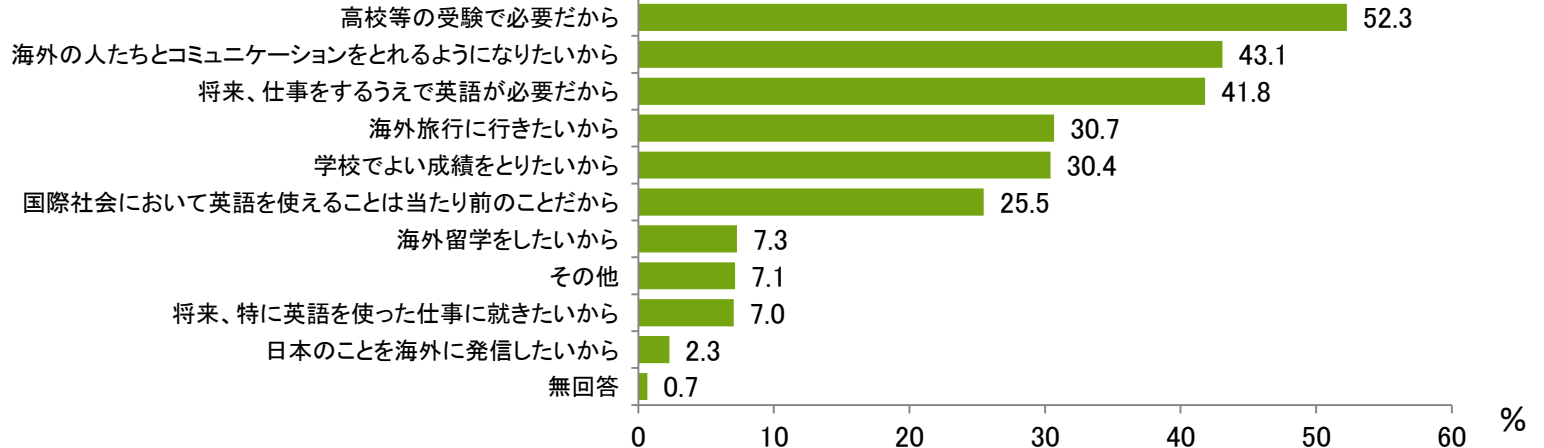


## 将来の英語使用に対する意識①（中2）

○ 英語の勉強が大切だと思う理由として、生徒の

- ・ 52.3%が「高校等の受験で必要だから」
- ・ 43.1%が「海外の人たちとコミュニケーションをとれるようになりたいから」
- ・ 41.8%が「将来、仕事をするうえで英語が必要だから」と回答。

Q. 英語の勉強が大切だと思うのはなぜですか。（3つまで複数選択可）

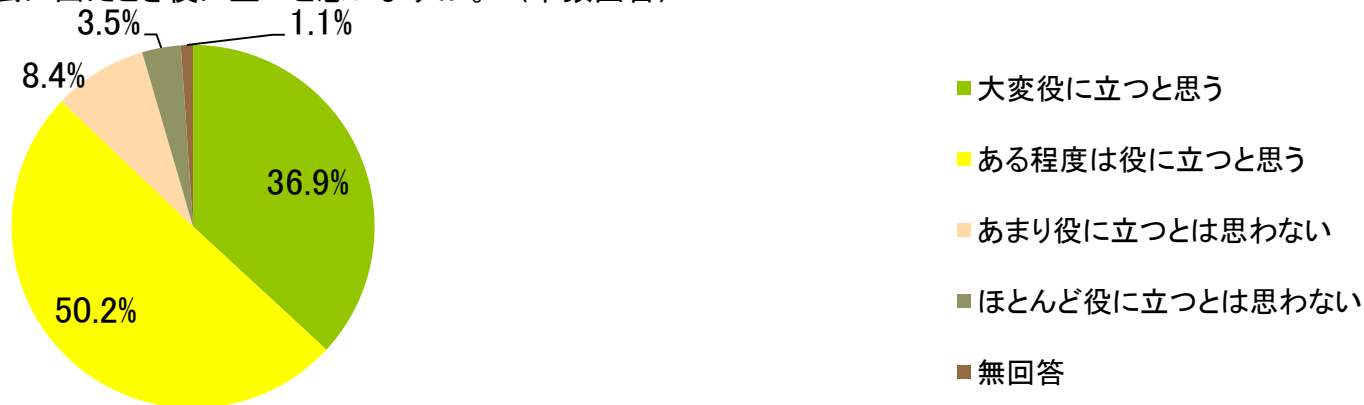


## 中学校2年生の外国語科に対する意識

### 将来の英語使用に対する意識②（中2）

○ 生徒の87.1%が、授業で学習したことは将来社会に出たときに「大変役に立つと思う、ある程度は役に立つと思う」と回答。

Q. 授業で学習したことは、将来社会に出たとき役に立つと思いますか。（単数回答）



### 将来の英語使用に対する意識③（中2）

- 生徒の42.0%が将来英語を使って「ぜひ働いてみたい、機会があれば働いてみたいと思う」と回答。
- 一方、「あまり働いてみたいとは思わない、全く働いてみたいとは思わない」と回答した生徒の割合は57.1%。

Q. 将来、英語を使って海外で働いてみたいと思いますか。（単数回答）



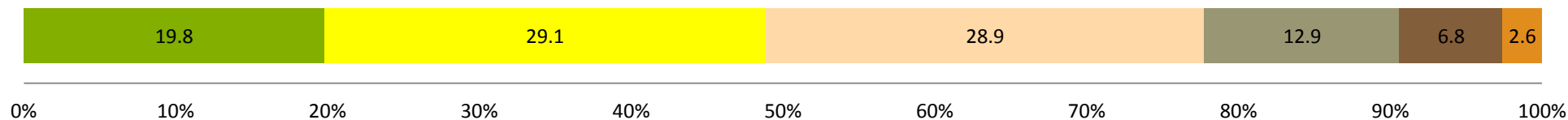
# 中学校2年生の外国語科に対する意識

## 授業の理解についての状況①（中2）

- 生徒の
  - ・ 48.9%が「英語の授業内容を理解している、どちらかといえば理解している」
  - ・ 28.9%が「半分くらい理解している」
  - ・ 19.7%が「授業内容を理解していない、どちらかといえば理解していない」と回答。

Q. 英語の授業の内容を理解していると思いますか。（単数回答）

■ 理解している ■ どちらかといえば理解している ■ 半分くらい理解している ■ どちらかといえば理解していない ■ 理解していない ■ 無回答

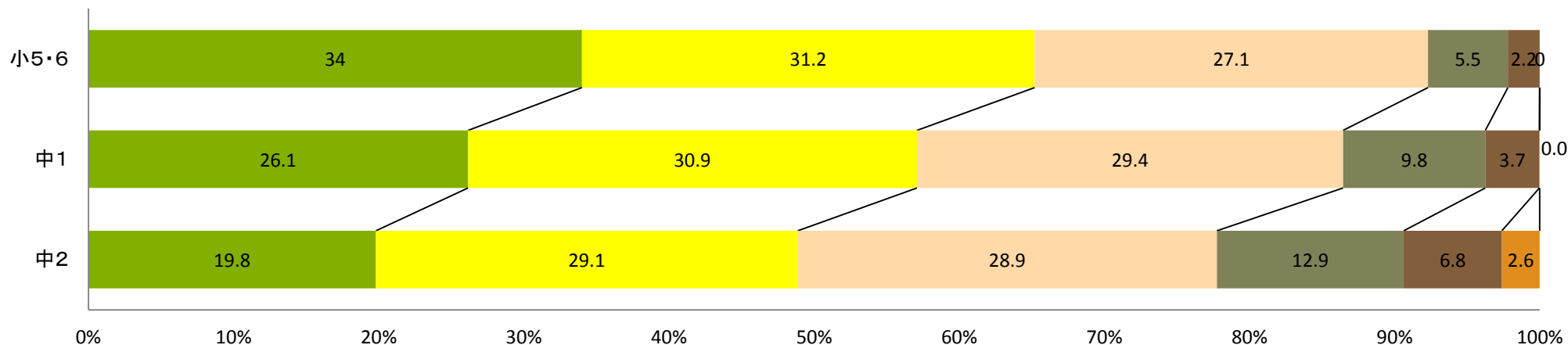


## 授業の理解についての状況②（小5・6、中1、中2）

- 「英語の授業を理解していると思うか」という問いに対し、小学生5, 6年生の65.2%、中学1年生の57.0%、中学2年生の48.9%が「理解している、どちらかといえば理解している」と回答。

Q. 英語の授業の内容を理解していると思いますか。（再掲）

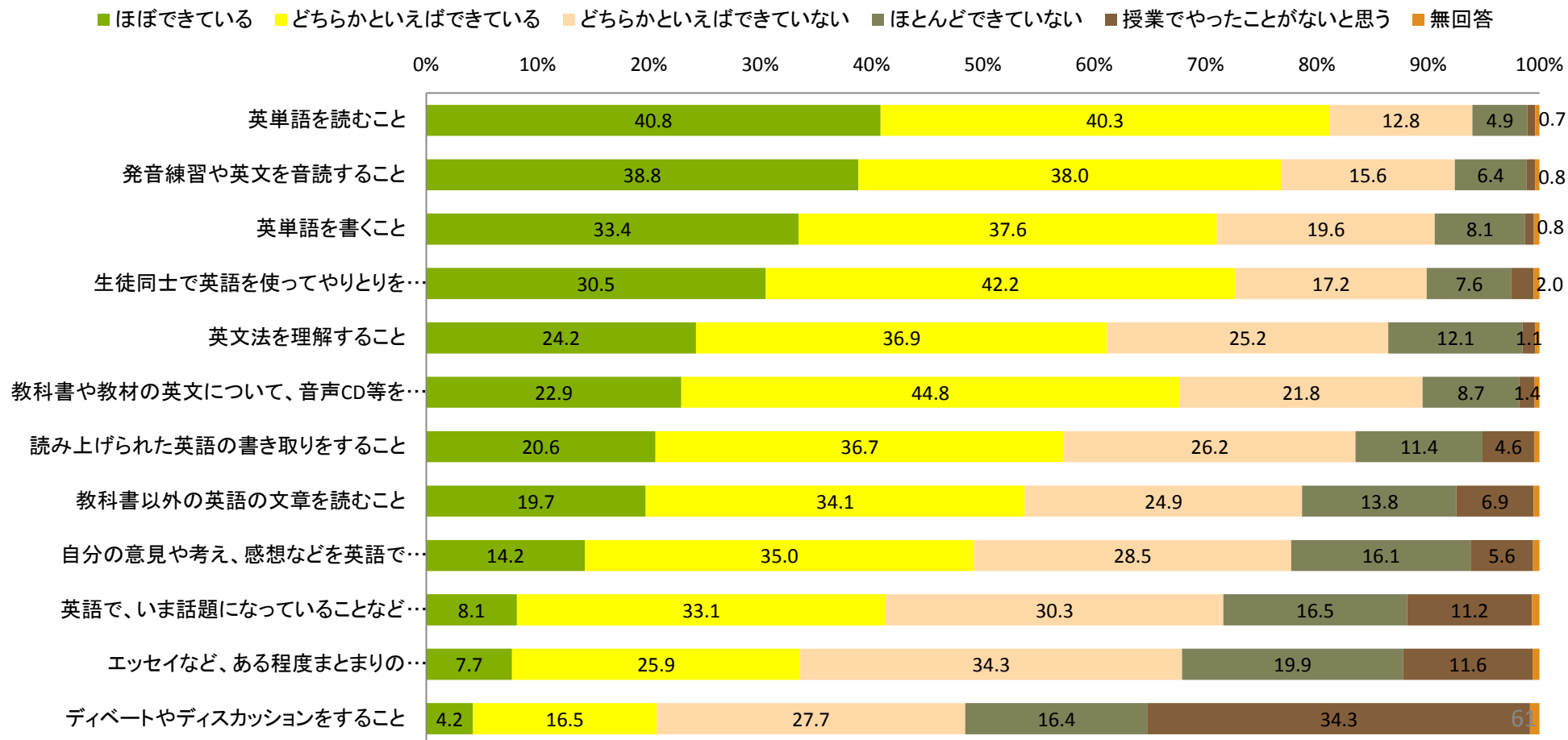
■ 理解している ■ どちらかといえば理解している ■ 半分くらい理解している ■ どちらかといえば理解していない ■ 理解していない ■ 無回答



英語の授業での取組状況（中2）

- 授業でどの程度できていると思うかについて、生徒の
  - ・81.1%が「英単語を読むことがほぼできている、どちらかといえばできている」
  - ・76.8%が「発音練習や英文を音読することがほぼできている、どちらかといえばできている」
  - ・33.6%が「エッセイなど、ある程度まとまりのある文章を書くことがほぼできている、どちらかといえばできている」
  - ・20.7%が「ディベートやディスカッションをすることがほぼできている、どちらかといえ

Q. 英語の授業の中で、次の項目についてどの程度できていると思いますか。（単数回答）

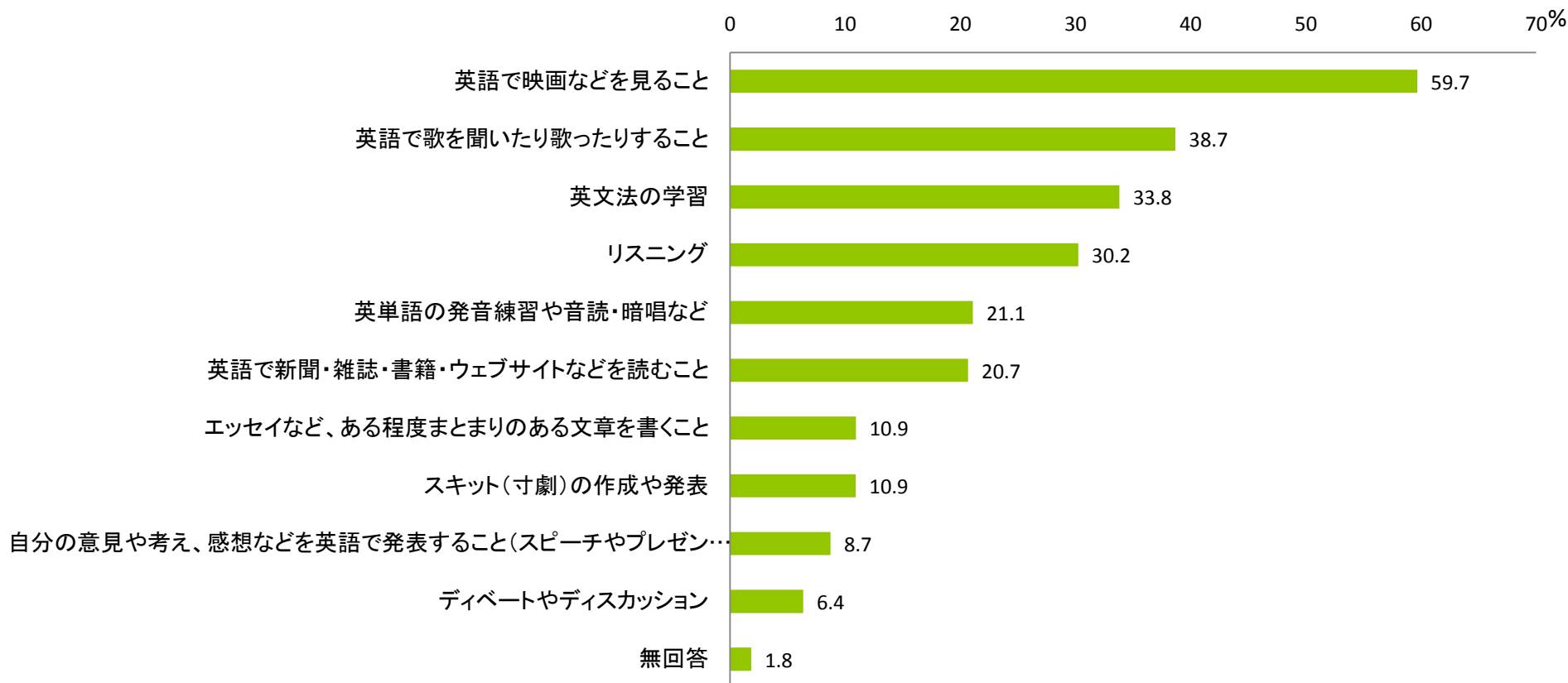


## 中学校2年生の外国語科に対する意識

### 英語の授業でもっとしてみたいこと（中2）

- 英語の授業の中で、生徒の
  - ・ 59.7%が「英語で映画などを見ること」
  - ・ 38.7%が「英語で歌を聴いたり歌ったりすること」
  - ・ 33.8%が「英文法の学習」
  - ・ 30.2%が「リスニング」をもっとしてみたいと回答。
- 生徒の8.7%が「自分の意見や考え、感想などを英語で発表すること（スピーチやプレゼンテーション）」と回答。6.4%が「ディベートやディスカッション」について、「もっとしてみたい」と回答。

Q. 英語の授業の中で、どのようなことをもっとしてみたいと思いますか。（3つまで複数回答可）

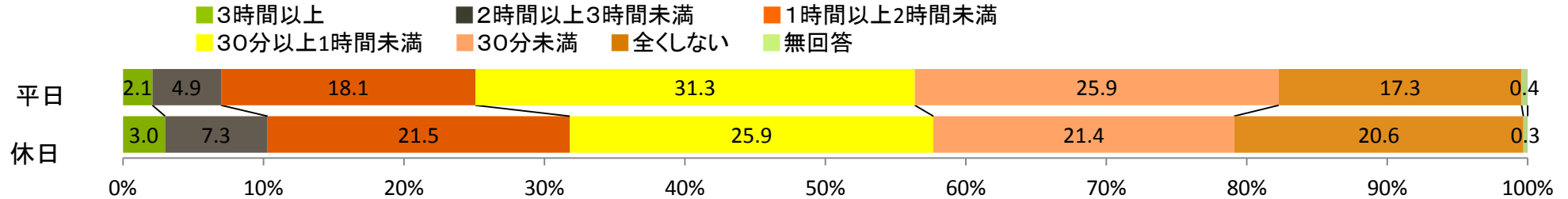


「平成26年度 小学校外国語活動実施状況調査結果」

予習・復習の状況 (中2)

○ 生徒が平日、1日あたり予習復習を行う時間の平均の割合は、「30分以上1時間未満」が31.3%と割合が高い。

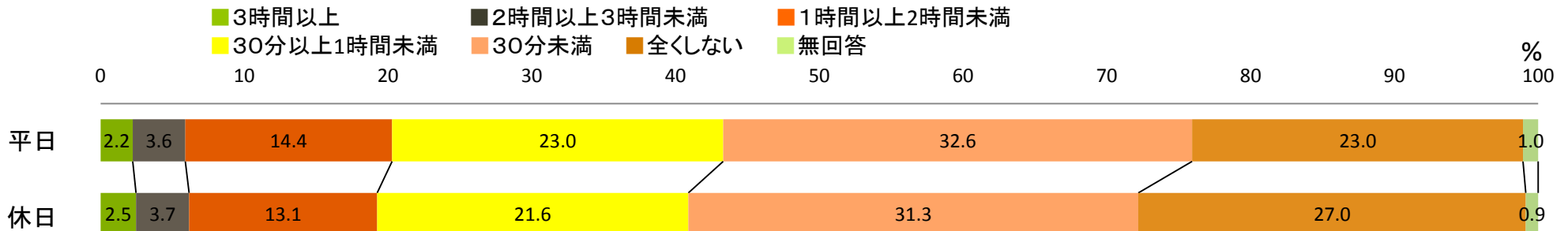
Q. 学校の授業の予習・復習を1日あたりどのくらい行っていますか。(単数回答)



英語に触れる状況 (中2)

○ 学校の授業の予習・復習以外に英語に触れている生徒の割合は平日で75.8%、休日で72.2%。

Q. 学校の授業の予習・復習以外に1日あたりどのくらい英語に触れていますか。(単数回答)



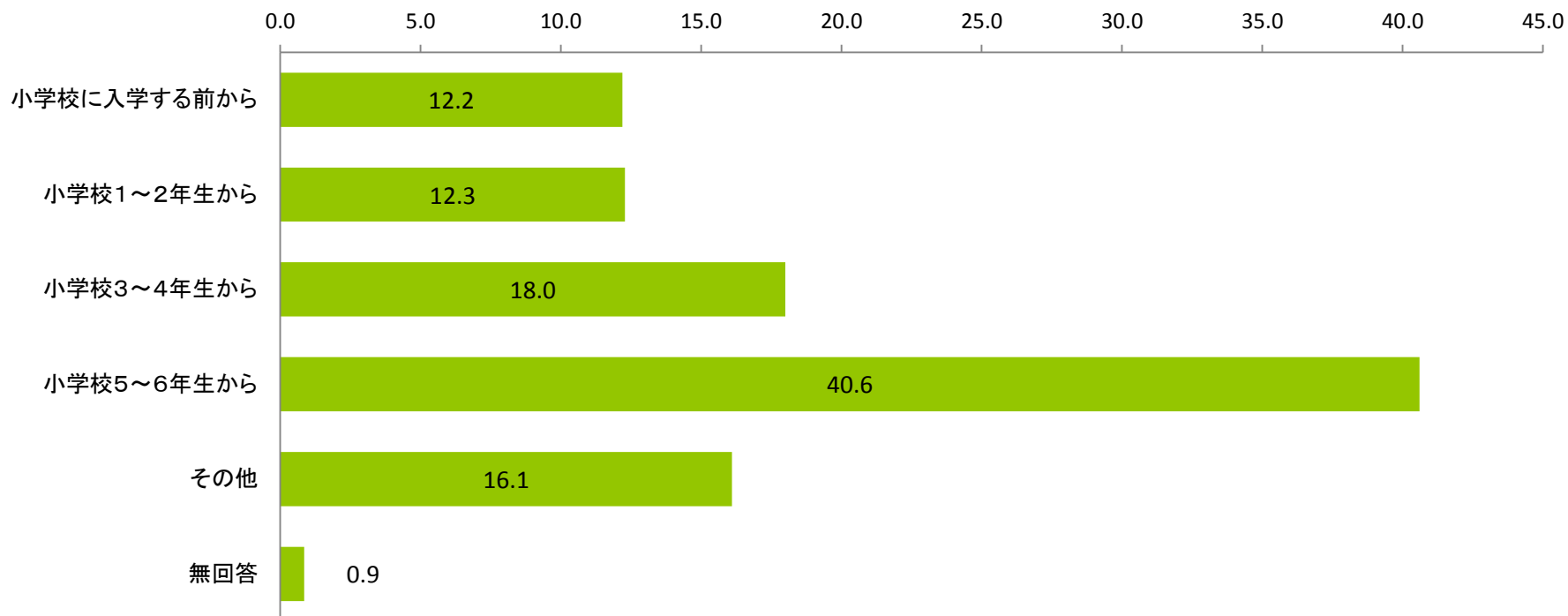
## 中学校2年生の英語に対する取組状況

### 英語を学び始めた時期（中2）

○ 英語を学び始めた時期について、生徒の

- ・ 12.2%が「小学校に入学する前から」
- ・ 12.3%が「小学校1～2年生から」
- ・ 18.0%が「小学校3～4年生から」
- ・ 40.6%が「小学校5～6年生から」と回答。

Q. 英語を学び始めたのはいつですか。（単数回答）



# (参考) 児童生徒の英語学習に関する状況

- 児童生徒が学校の授業や英会話教室で英語を学び始めた時期  
(平成25年度 全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査)

学校種	小学校入学前	小1・小2	小3・小4	小5・小6	中1以降
小学校	17.9%	23.9%	25.0%	32.8%	—
中学校	11.2%	11.8%	18.6%	38.4%	19.8%

- 英語の学習が好きと回答している児童生徒  
(平成25年度 全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査)

小学校第6学年	中学校第3学年
約76%	約53%

- 将来、外国へ留学したり国際的な仕事に就いたりしてみたいと思うと回答している児童生徒  
(平成25年度 全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査)

小学校第6学年	中学校第3学年
約39%	約31%



# 外国語科担当教員の中学1年生に対する意識

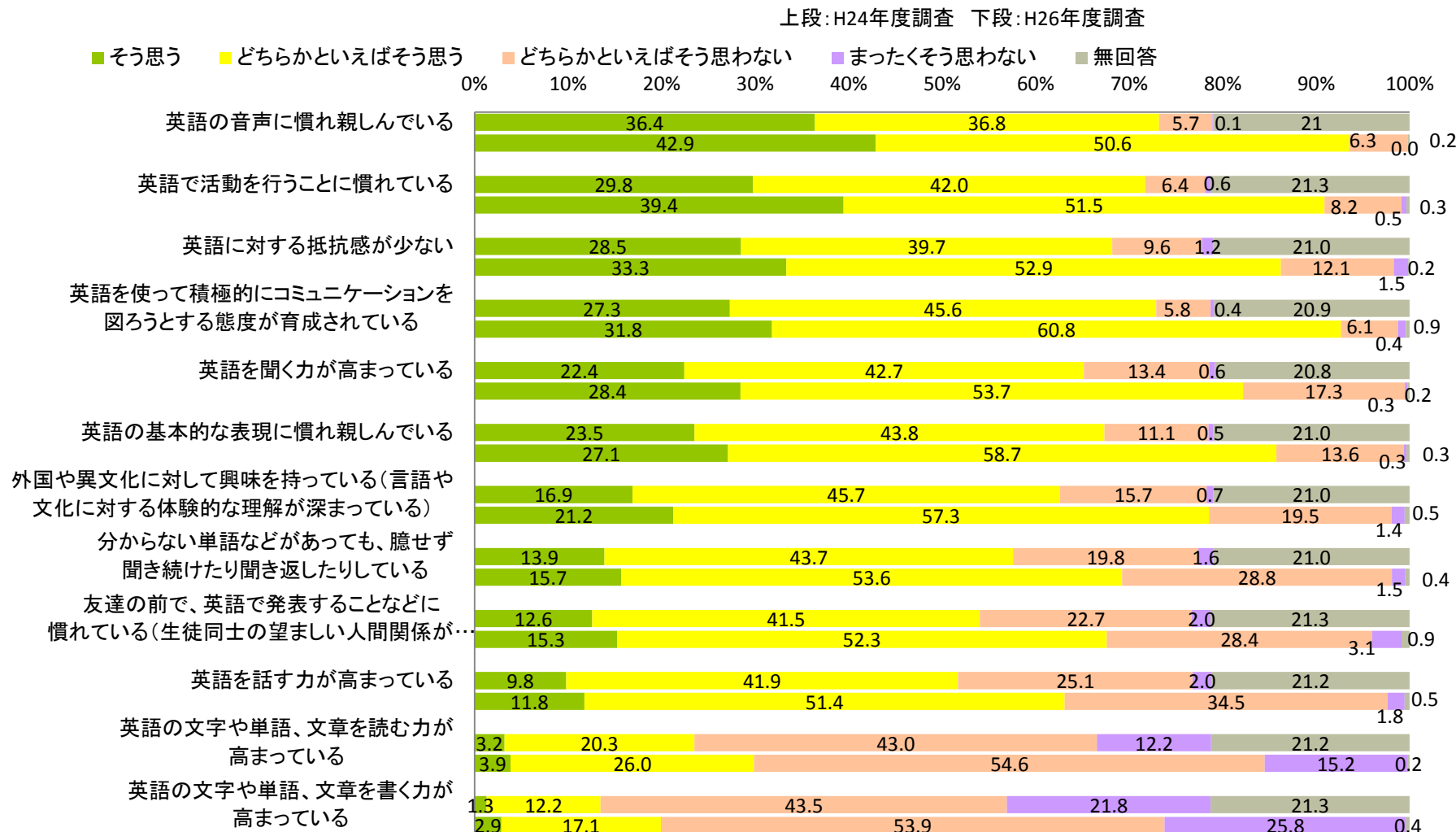
## 外国語活動を経験した中学1年の生徒の変容②

- 小学校で外国語活動を経験したことにより、「英語の音声に慣れ親しんでいる」93.5%（73.2%）、「英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育成されている」92.6%（72.9%）などの成果や変容が見られる。

※上記の%数値は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計

( )内は、前回調査結果

Q. 具体的にどのような成果や変容がみられましたか。(単数回答)



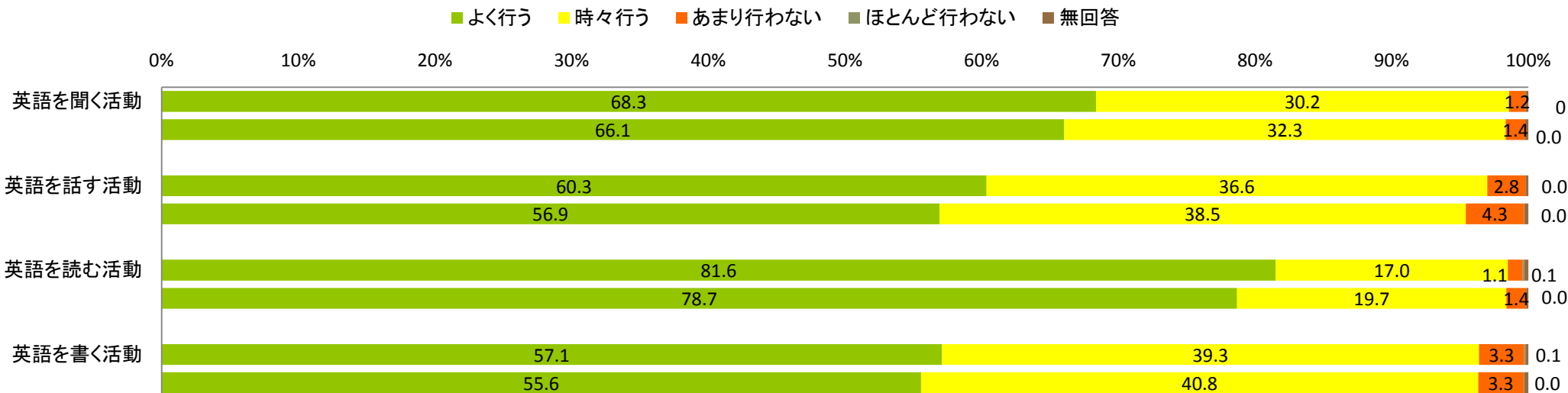
# 中学校外国語科担当教員の外国語科指導状況

## 授業における言語活動の指導①

○ 「聞く活動」66.1%（68.3%）、「読む」78.7%（81.6%）に比べ、「書く活動」55.6%（57.1%）、「話す活動」56.9%（60.3%）の割合がやや低くなっている。

（ ）内は、前回調査結果

Q. あなたの英語の授業において、1つの単元の中でそれぞれの活動をどの程度行っていますか。（単数回答）

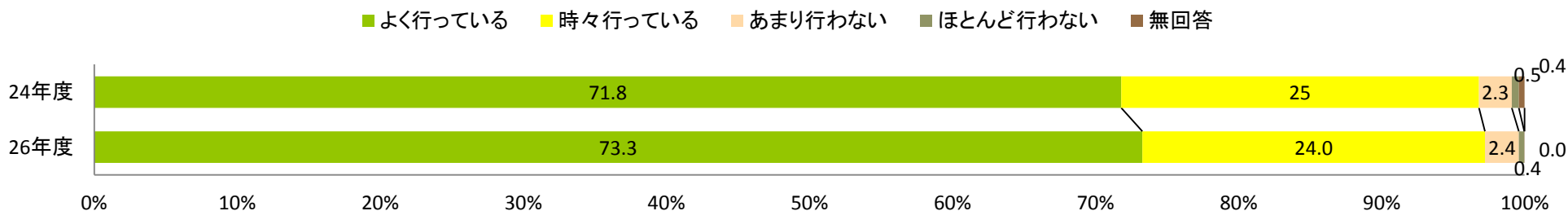


上段：H24年度調査 下段：H26年度調査

## ペアワーク・グループワークの実施状況

○ 97.3%（96.8%）の教員がペアワークやグループワーク「よく行っている、時々行っている」と回答。

Q. あなたの英語の授業において、生徒にペアワークやグループワークをどの程度させていますか。（単数回答）



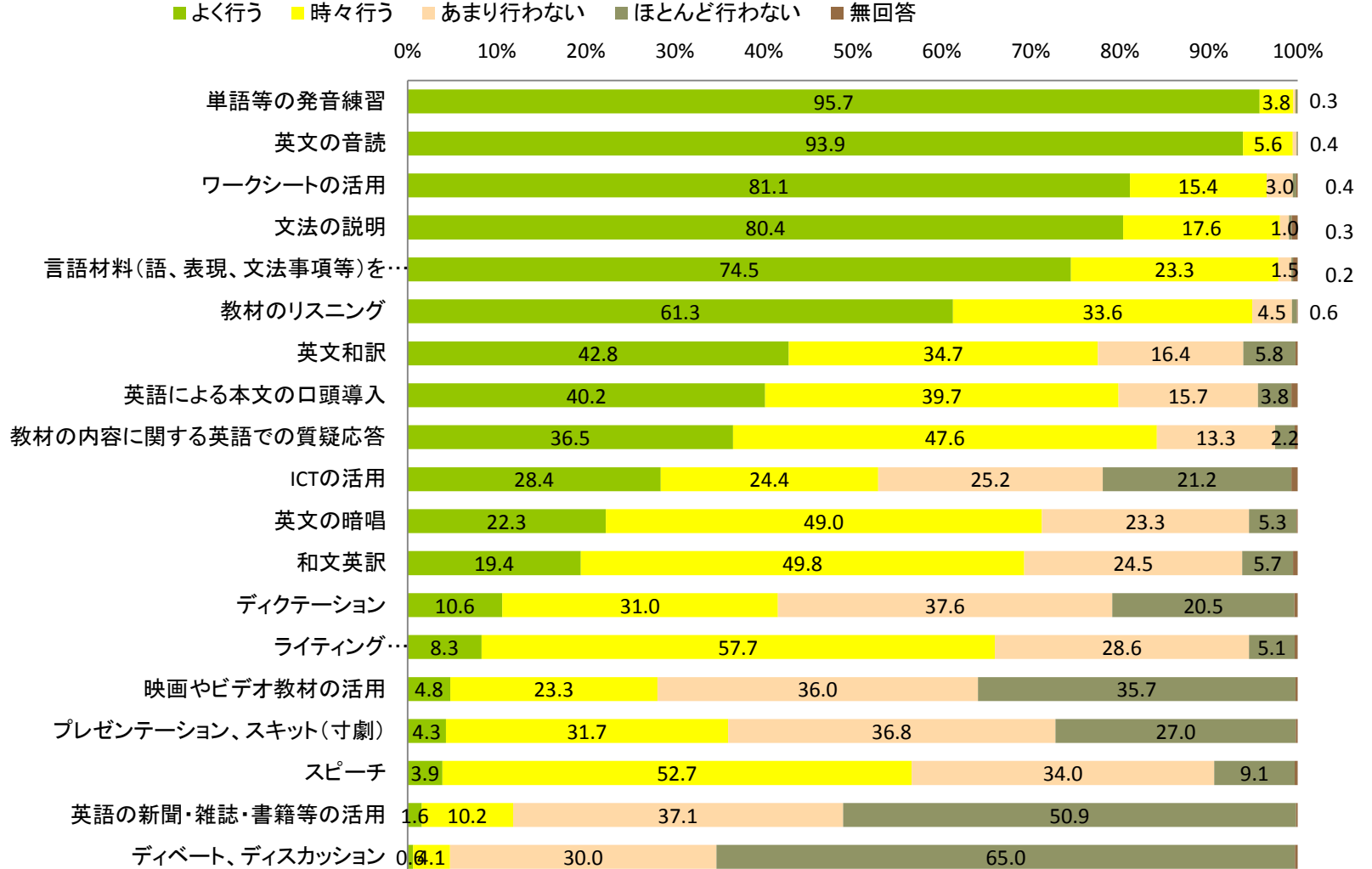
# 中学校外国語科担当教員の外国語科指導状況

## 授業における言語活動の指導②

○ 「文法の説明」98%や「言語材料を活用できるようにするための練習」97.8%に比べ、それをさらに活用して行う「スピーチ」56.6%、「プレゼンテーションやスキット（寸劇）」36.0%、「ディベート、ディスカッション」34.7%の割合は低い。

※上記の%数値は「よく行う」「時々行う」の合計

Q. あなたの英語の授業において、次のようなことをどのくらい行いますか。（単数回答）

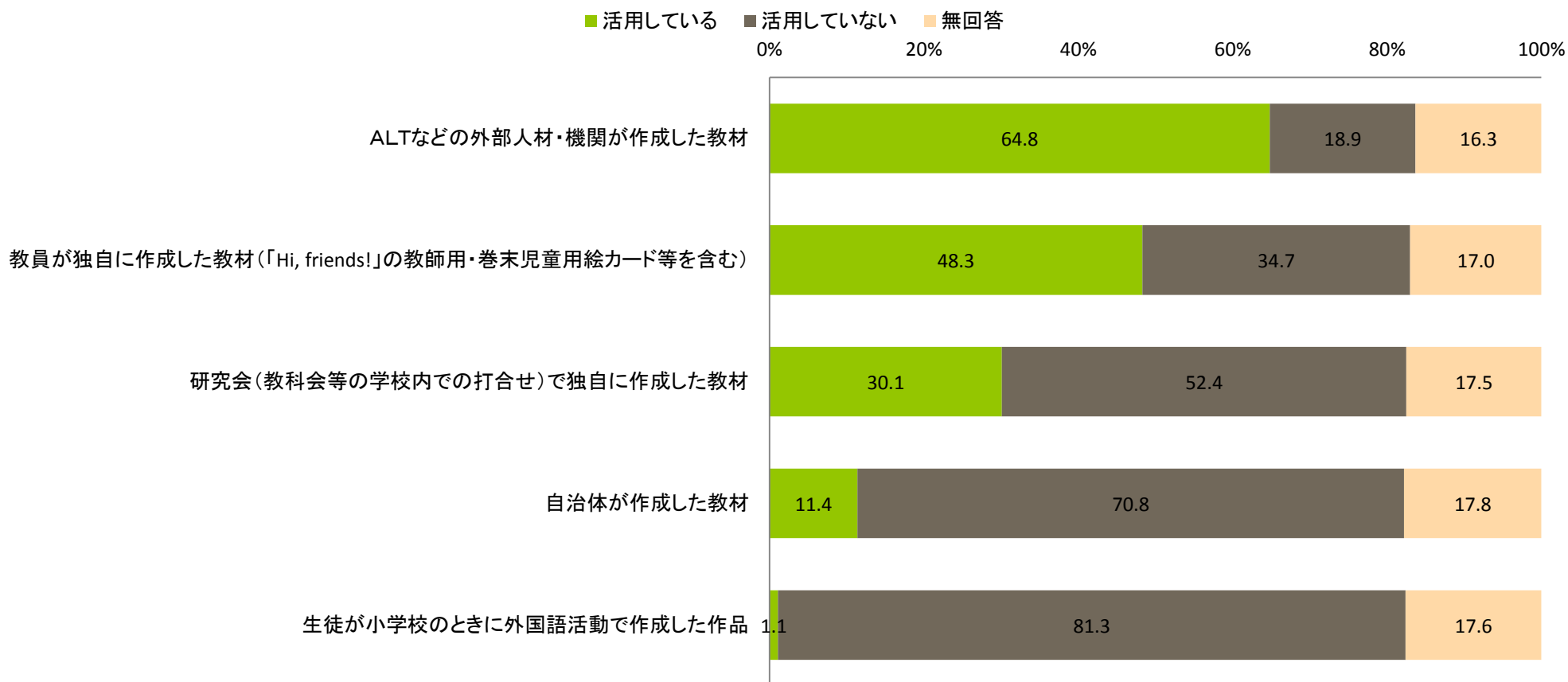


## 中学校外国語科担当教員の外国語科指導状況

### 活用している教材の状況

- 英語の授業で活用している教材について、教員の
  - ・ 64.8%が「ALTなどの外部人材・機関が作成した教材」
  - ・ 48.3%が「教員が独自に作成した教材（「Hi, friends!」の教師用・巻末児童用絵カード等を含む）」
  - ・ 30.1%が「研究会（教科会等の学校内での打合せ）で独自に作成した教材」を活用していると回答。

Q. 外国語活動を踏まえ、あなたが英語の授業で活用している教材について、それぞれあてはまるものを選択してください。（単数回答）



# 外国語科担当教員の研修等に対する意識

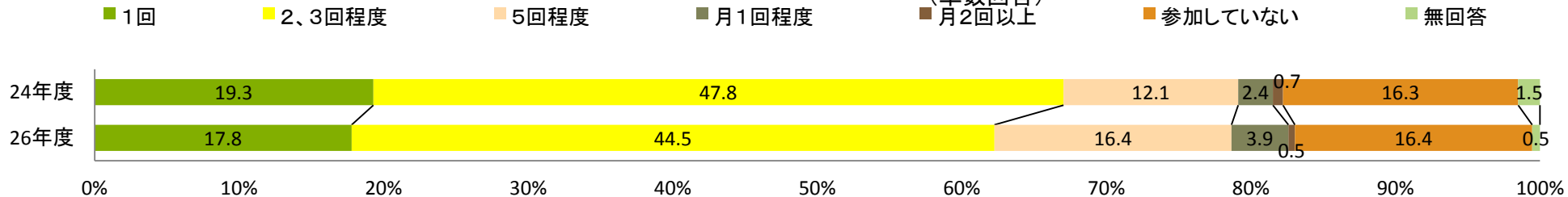
## 学校外での研修

- 教員の83.1%（82.3%）が学校外での研修に参加している。
- 参加回数について、44.5%（47.8%）は年度内に2、3回程度と回答。

( )内は、前回調査結果

Q. あなたは今年度中にどの程度外国語活動を踏まえた指導に関する学校外での研修に参加しましたか。

(単数回答)

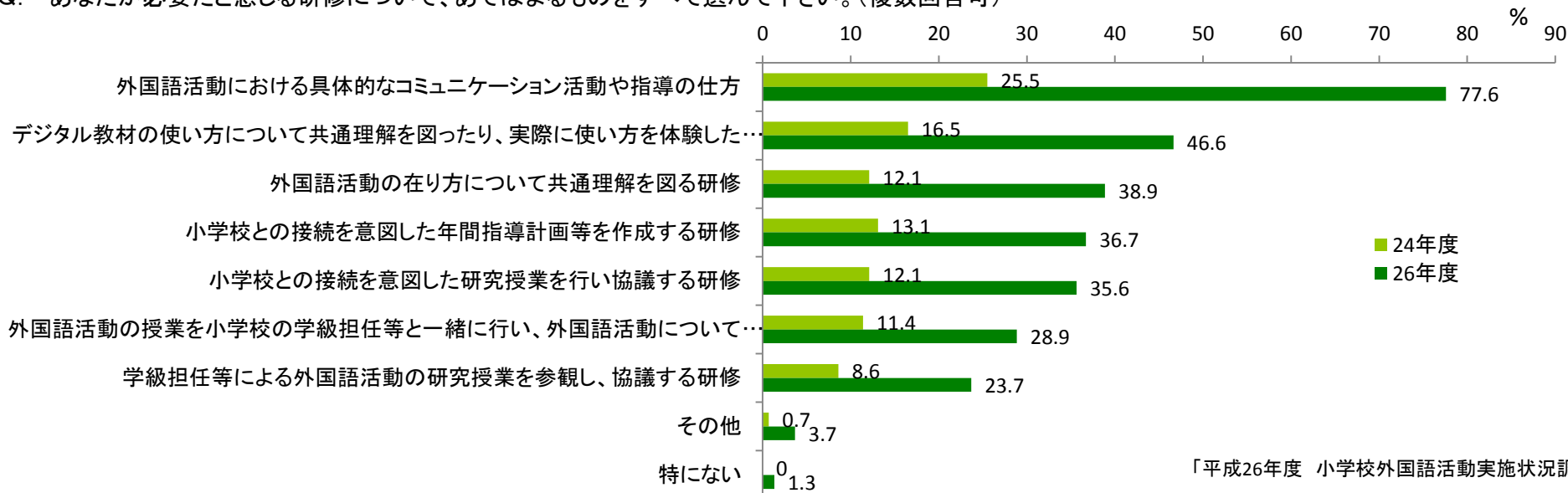


## 必要だと感じる研修

- 教員の77.6%（25.5%）が「外国語活動における具体的なコミュニケーション活動や指導の仕方に関する研修」が必要と回答。

( )内は、前回調査結果

Q. あなたが必要だと感じる研修について、あてはまるものをすべて選んで下さい。(複数回答可)



「平成26年度 小学校外国語活動実施状況調査結果」

# 外部試験団体と連携した英語力調査事業

平成28年度予算(案)額 62,609千円( 116,325千円)

## 英語教育の在り方に関する有識者会議報告(H26. 9. 26)

生徒の英語力を把握し、きめの細かな指導の改善・充実や生徒の学習意欲の向上につなげるため、「第2期教育振興基本計画」(平成25年6月14日閣議決定)において掲げられている英語力の目標(学習指導要領に沿って設定される目標(中学校卒業段階:英検3級程度以上、高等学校卒業段階:英検準2級程度から2級程度以上)を達成した中・高生の割合50%)から、高等学校段階の生徒の特性・進路等に応じた英語力、例えば、高等学校卒業段階で、英検2から準1級、TOEFL iBT60点程度等以上を設定し、生徒の英語力の把握・分析・改善を行うことが必要。

## 生徒の英語力向上推進プラン(H27. 6. 5)

- ①生徒の英語力に係る国の目標を踏まえた都道府県ごとの目標設定・公表を要請
- ②「英語教育実施状況調査」に基づく都道府県別の生徒の英語力の結果の公表
- ③義務教育段階の中学校については、英語4技能を測定する「全国的な学力調査」を国が新たに実施することで英語力を把握
- ④中・高・大学での英語力評価及び入学選抜における英語の4技能を測定する民間の資格・検定試験の活用を引き続き促進。

### ●H26より高等学校第3学年、H27より中学校第3学年を対象に生徒の英語力を把握し、その結果を分析・検証

\*平成27年度は高等学校第3学年約9万人、中学校第3学年約6万人を対象に実施。

### ●「第2期教育振興基本計画」の成果指標である英語力を4技能(聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと)にわたって測定するフィジビリティ調査

### ●生徒の英語力や学習状況について把握・分析を行い、それらの結果を指導改善に活用

### ●平成28年度は、中学校第3学年を対象に調査を実施

(経年比較を含めた分析を実施)

### ●「生徒の英語力向上推進プラン」(H27.6文部科学省発表)を受け、

中学校については、英語の4技能を測定する「全国的な学力調査」の導入\*等

に向けた検討において活用

\*平成31年度を目途に文部科学省「全国的な学力調査に関する専門家会議」英語ワーキンググループにおいて検討

### (参考)今後の実施イメージ

#### <高等学校第3学年の調査>

- ①「教育振興基本計画」のPDCAサイクルにおけるCheck機能、②教育委員会等における指導改善の活用資するものとして、調査時期については計画達成状況の把握に必要な時期に実施。

※平成28年度は実施しない。

(実施パターン例:「教育振興基本計画」の期間中、期首・中間・期末 など)

#### <中学校第3学年の調査>

平成28年度調査を実施。

(その後の予定(イメージ):「全国的な学力調査」の詳細設計(H29~)、予備調査実施(H30~))

### 【指導改善における活用のイメージ】

<Plan> 学校における指導等の計画

<Do> 指導(授業内外の取組)

<Check>

英語の資格・検定試験実施団体、  
研究機関と連携した英語力調査

質問紙  
調査  
(学習状況等)

効果的な指導の検証・課題の抽出

<Action> 指導改善の取組

- 「読むこと」「聞くこと」は、CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）A1上位からA2下位レベルに集中。
- 「書くこと」の得点者は全体の約70%（無回答：29.2%）、「話すこと」の得点者は全体の約85%（無回答：13.3%）となっており、課題が大きい。

【国公立全体のスコア分布】

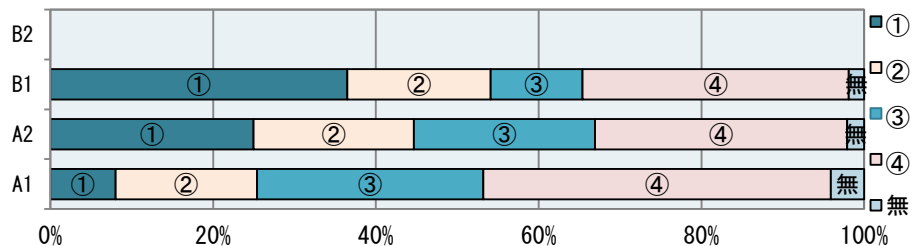
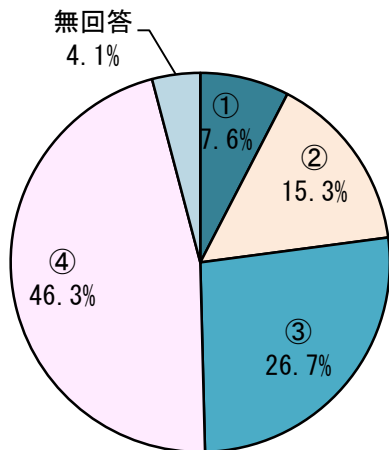
<読むこと> 43問 (約45分)				<聞くこと> 36問 (約25分)				<書くこと> 2問 (約25分)				<話すこと> 3問 (対面約10分)																								
CEFR	得点	Reading	割合	CEFR	得点	Listening	割合	CEFR	得点	Writing	割合	CEFR	得点	Speaking	割合																					
B2	320	77	0.2%	B2	320	175	0.3%	B2	140	2	0.0%	B1	14	274	1.7%																					
	310	18		B1	135	0			B2	13			272																							
	300	27			B1	130				3			A2	12		415																				
290	37	B1	125			7	A2	11		501																										
280	69		B1	120		33		A1	10	657																										
270	82			B1	115	45			A1	9	691																									
260	107	B1			110	175	A1			8	770																									
250	157		B1		105	222		A1		7	946																									
240	195			B1	100	578			A1	6	1185																									
230	317	B1			95	608	A1			5	1632																									
220	420		B1		90	1,183		A1		4	1105																									
A2	210			561	25.1%	A2			210	615	21.8%	A2	85	946	12.8%	A1	3	1648	87.2%																	
	200	778		A2			200		748	A2			80	1,804																						
	190	1124	A2				190	992	A2				75	1,736																						
	180	1477					A2	180					1241	A2			70	1,971																		
	170	1956						A2					170				1731	A2		65	1,816															
	160	2610											A2				160			2199	A2	60	2,347													
	150	3545															A2			150		2996	A2	55	1,978											
	140	5245																		A2		140		4034	A2	50	2,516									
A1	130	8192			72.7%	A1					130	5438			75.9%	A1			45			2,111		86.5%		A1	0	2210								
	120	11790		A1						120	7684	A1							40			2,417														
	110	12508	A1						110	8831	A1								35			1,988														
	100	9796					A1		100	9026				A1					30			2,497														
	90	4698						A1	90	7840								A1	25			2,080														
	80	1823							A1	80			5782						A1		20	2,258														
	70	604								A1			70				3474				A1	15	2,167													
	60	208											A1				60			2125		A1	10		2,562											
	50	76															A1			50			920		A1		5	2,913								
	40	51																		A1			40				396	A1	0	30,089						
	30	19																					A1				30		189	A1	平均	27.2				
	20	2																									A1		20		106	A1	調査対象	69,052		
	10	0																											A1		10		99	A1	0点	20,139
	0	285																													A1		0		352	A1
平均	129.4	平均			120.3	平均									27.2	平均								4.5												
調査対象	68,854	調査対象		68,854	調査対象	69,052						調査対象			16,583																					
											0点	2,210			13.3%																					

## 4技能を通じた言語活動に対する意識

- 英語でスピーチやプレゼンテーションをした経験が少ない。
- 「話すこと」の試験結果が高いほど、授業において「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思う」生徒の比率が高い（公立）

問 第2学年での英語の授業では、英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思いますか。

- ①そう思う ②どちらかといえば、そう思う  
③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない

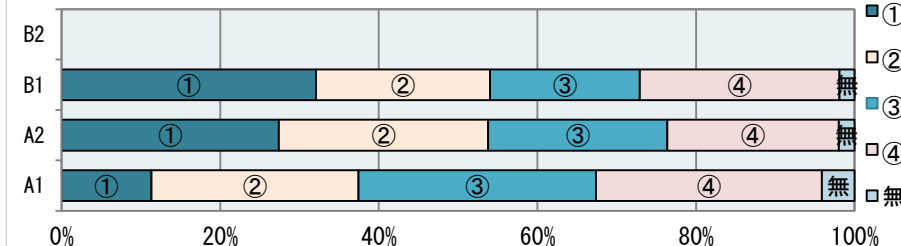
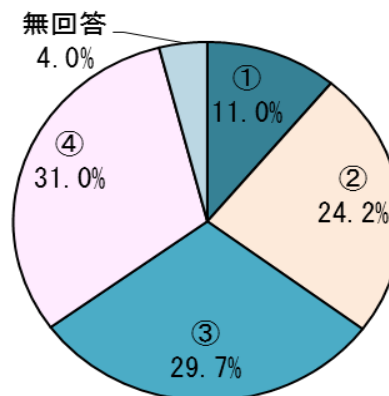


※「書くこと」の試験結果とのクロス。

- 聞いたり読んだりしたことについて、英語で話し合ったり意見交換をした経験が少ない。
- 「話すこと」の試験結果が高いほど、「生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしていると思う」生徒の比率が高い（公立）

問 第2学年での英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりしていたと思いますか。

- ①そう思う ②どちらかといえば、そう思う  
③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない



※「話すこと」の試験結果とのクロス。



# 学校の取組紹介：CAN-DO リストに基づいた4技能統合型の授業を推進

## 1 学校プロフィール(※学級数及び生徒数は平成27年2月調査日時点)

学級数・生徒数	15学級(548人)／第3学年…5学級(196人)
ALT活用状況	ALTは1人で、週4日勤務。授業は第1・2学年の全クラスでそれぞれ週1回担当
備考	・生徒の学習意欲向上を重視した学習到達目標(CAN-DOリスト)の設定・評価の工夫

## 2 テスト結果、質問紙における学校の特徴⇒4技能の言語活動の割合が高く、ライティング、スピーキング力は全国平均の2倍以上

	Reading	Listening	Writing	Speaking
当該高等学校の平均点	137.2	134.6	54.8	8.8
全国平均点(公立学校)	126.7 / 320	117.1 / 320	24.9 / 144	4.2 / 14

## 3 生徒質問紙結果 ⇒ 「聞く、読む」→「話す、書く」の統合型の言語活動が多い。

- ◆「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で話し合ったり意見の交換をしたりする活動」79.3% (全国では35.2%)、「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動」78.2% (全国平均38.7%)はいずれも高い割合で実施。

## 4 特色ある授業内の取組

### ①学習到達目標－CAN-DOリストに基づいた授業設計で、教員間及び教員・生徒同士で目標を共有

CAN-DOリストにより、教員間で指導・評価の方向を共有するとともに、生徒は自分が何ができるようになったのかや課題は何であるのかを可視化、教員間で指導・評価の方向を共有。

### ②毎時間ペア・ワークを行い、実際の場面で使えるスピーキング力を育成

授業ではほぼ毎時間、ウォームアップとして、既習の文法事項を活用したペア・ワークを行っている。文法事項を単に暗記させるのではなく、実際のコミュニケーションの中で当該文法事項を使うことを大切にしている。

### ③書いた文章を生徒相互で読み合うことによる読み手を意識したライティング活動

ライティングでは、授業の2回に1回は、「登場人物にEメールを書く」などまとまりのある文章を書く。  
完成した文章はペアやグループで相互に読み合うことで、読み手が理解しやすいように文章を書くことを心がけている。また、スピーキングテストと同時にエッセイテストなどにおいてライティングの評価を行い、地域の英作文コンテストに向けた校内予選を兼ねている。

### 特色ある授業外の取組

#### 英字新聞の発行、スピーチコンテスト等への積極的な出場

英字新聞発行のため生徒が記者として記事を書いたり、生徒の寄稿を受け付け2、3か月に1回発行し、生徒全員に配付。また、英作文コンテストやスピーチコンテスト、自治体や企業が主催する短期海外研修プログラムにも、多くの生徒が参加を希望。



(「すごろくゲーム」形式でリテリング(再話))

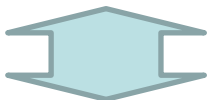


(1対1の「お見合い回転ずし」の体形でスピーチ)

# 秋の事業レビューにおける指摘について(英語教育)

## レビューでの指摘

中・高校生の学力到達度合、教員の英語力は非常に低い。教員研修を漫然と実施するだけでなく、中高の教員の配置見直しやICT等の外部教材の活用など、費用対効果を考えつつ検証すべき。



## 文部科学省としての対応

- 「第2期教育振興基本計画」(H25年6月閣議決定:H25~29年度)の目標設定の下、文部科学省「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」を公表(H25年12月)  
⇒ 平成26年度より事業開始、PDCAサイクルの徹底



- 「生徒の英語力向上推進プラン」(H26. 6公表)
  - ・中学3年生を対象とした英語4技能を測定する「全国的な学力調査」実施(平成31年度を目途)に向けた検討を今年8月より開始
  - ・各都道府県で「英語教育改善プラン」の策定・実行によるPDCAサイクル構築
    - ①平成27年秋:各都道府県の「英語教育改善プラン」の策定を要請(目標設定、管理と研修計画、検証など)
    - ②平成28年春:各都道府県の「英語教育改善プラン」の公表
    - ③平成28年度中:各都道府県のプランとその効果のモニタリング・国の目標達成状況のモニタリング
    - ④平成29年度中:レビューし、第3期教育振興基本計画の新たな目標設定



第2期教育振興基本計画(H25~29年度)の成果目標

[生徒の英語力]

※中学卒業段階では英検3級程度以上50%  
(H26:35%)、

高校卒業段階では英検準2級~2級程度以上50%(H26:32%)

[教員の英語力]

※英語教員は英検準1級、TOEFLiBT80点程度以上(中学英語教員は50%(H26:29%)、高校英語教員は75%以上(H26:55%))

文部科学省(小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業等)(H26より順次実施)

- ①英語教育強化地域拠点事業(29地域)
- ②小学校英語教科化に向けた新たな補助教材開発・検証
- ③外部専門機関と連携した英語担当教員の指導力向上(「英語教育推進リーダー」養成)
- ④外部試験団体と連携した生徒の4技能英語力調査(中3・高3を対象に実施)
- ⑤教員養成の抜本改善
- ⑥小学校英語教科化に対応した  
中学英語免許状取得支援(H28年度新規要求)
- ⑦教員の採用改善
- ⑧ICT活用による英語教育の推進

# Check (全体)

➤ 「生徒の英語力」と「教員の英語力・指導力」の把握・県別公表・課題の分析・施策の検証

第2期教育振興基本計画 (25～29年度)

第3期教育振興基本計画 (30～34年度)

第4期 (35年度～)

25年度 (2013) 26年度 (2014) 27年度 (2015) 28年度 (2016) 29年度 (2017)

30年度 (2018) 31年度 (2019) 32年度 (2020) 33年度 (2021) 34年度 (2022)

35～39年度

## ◆ 学習指導要領改訂

◆ 英語教育の在り方に関する有識者会議報告(26年9月)

中教審において審議  
H28年度中を目処に答申

改訂

新学習指導要領を段階的に先行実施

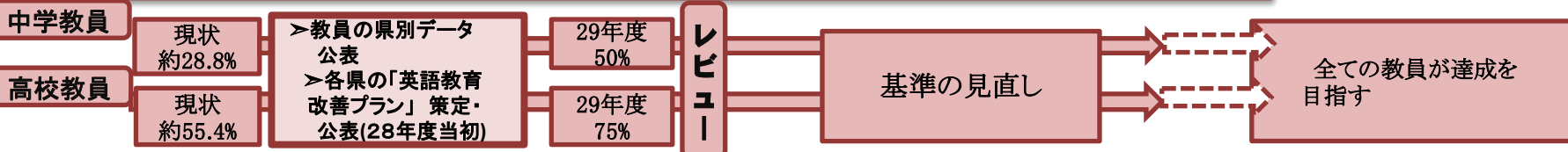
小学校  
全面実施

中学校  
全面実施

高校  
年次進行により実施

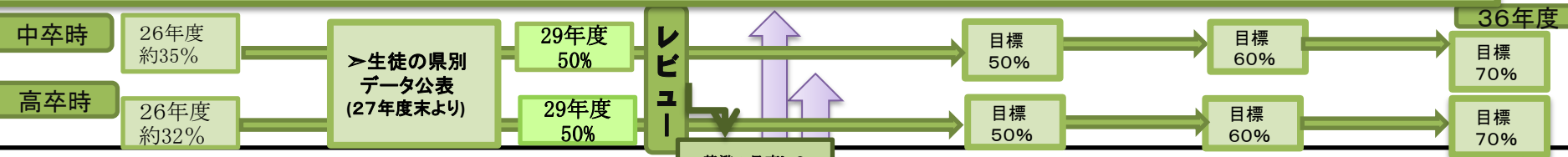
## ◆ 教員の英語力に関する目標設定 [英語教育実施状況調査]

⇒英検準1級程度以上,TOEFLiBT80点以上 (CEFR : B2) を達成した**中学英語教員の割合50%、高校英語教員の割合75%**



## ◆ 生徒の英語力に関する目標設定 [英語教育実施状況調査]

⇒中学校卒業段階：英検3級程度以上 (CEFR : A1上位) 高等学校卒業段階：英検準2級程度～2級程度以上 (A2～B1) を達成した**中高校生の割合50%**



## ◆ 生徒の4技能英語力の把握・検証・改善

中学3年生の英語力調査  
6万人のフィジビリティ調査  
(27～28年度実施)

全国的な英語4技能の学力調査

(調査詳細設計) (30年度予備調査)  
(31年度より実施)

※例えば複数年に一度程度での実施を検討

高校3年生の英語力調査  
7万人のフィジビリティ調査  
(26～27年度実施)

→ 高大接続改革実行プランに基づき高大接続システム改革会議において検討されている  
高等学校基礎学力テスト(仮称)の実施(平成31年度～)等

うち、職業、又は留学等を希望する生徒に必要な英語力の目標設定 B1～B2以上 (英検2～準1級程度) 10%以上

# 目標達成のための具体的なPDCAサイクル

## 国の支援(26年度以降、開始)

### ①『英語教育強化地域拠点事業』

(研究開発課題例)

- ・小・中・高を通じた指標形式の目標設定
- ・小学校英語の早期化・教科化

### ②『外部専門機関と連携した英語指導力向上事業』

- ・生徒の英語力、英語担当教員の英語力・指導力の把握・検証・公表・改善
- ・改善例を公表

- ①平成27年秋：各県の「英語教育改善プラン」の策定要請の徹底  
同プラン内の教員の英語力・指導力向上の具体的計画策定について強く要請
- ②平成28年春：各県の「改善プラン」の公表
- ③平成28年度中：各県のプランとその効果のモニタリング  
国の目標達成状況のモニタリング
- ④平成29年度中：レビューし、第3期教育振興基本計画の新たな目標設定

## 県における「英語教育改善プラン」策定・公表

課題

[生徒] 4技能、特に「話す」「書く」発信力が弱い  
[教員] 生徒が自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う指導に必要な英語力・指導力が十分でない。

検証



改善



## 県教育委員会の目標設定・管理(高校の例)

	H25年	H26年		～	H29年
	現 状	目標値	達成値	⇒	目標値
学習到達目標の設定(CAN-DOリスト)	41%	100%	100%	～	100%
教員の授業における英語使用状況	55%	58%	60%	～	80%
教員の英語力	65%	72%	76%	～	95%
生徒の英語力	36%	40%	39.3%	～	50%

平成26年度は、研修受講後、民間の外部試験を受検し、英語力を10%以上向上した事例もあり

「課題」を踏まえ、次期学習指導要領の準備と課題に係る取組に重点化。

(例)

#### ◆ 英語教師の英語力向上講座

- ・受講後、全員が英検、TOEFL、TOEICなど民間の資格・検定試験を受検

#### ◆ 英語によるスピーチ・ディベート指導者養成講座

- ・指導法、パフォーマンス評価方法、ディベートを通して身につく力(論理的思考力などの育成)、ディベート大会による活動

#### ◆ 外国語指導助手(ALT)の指導力向上研修

## (参考) 外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠について

- CEFR (Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment) は、語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために、透明性が高く、分かりやすい、包括的な基盤を提供するものとして、20年以上にわたる研究を経て策定された。欧州域内外で使われている。
- 欧州域内では、国により、CEFRの「共通参照レベル」が、初等教育、中等教育を通じた目標として適用されたり、欧州域内の言語能力に関する調査を実施するにあたって用いられたりするなどしている。

熟練した 言語使用者	<b>C2</b>	聞いたり読んだりした、ほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構築できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができる。
	<b>C1</b>	いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文章を理解して、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会生活を営むため、また学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文章を作ることができる。
自立した 言語使用者	<b>B2</b>	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。
	<b>B1</b>	仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。
基礎段階の言 語使用者	<b>A2</b>	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。
	<b>A1</b>	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができ、住んでいるところや、誰と知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。



# 各試験団体のデータによるCEFRとの対照表

CEFR	Cambridge English	英検	GTEC CBT	IELTS	TEAP	TOEFL iBT	TOEFL Junior Comprehensive	TOEIC / TOEIC S&W
C2	CPE (200+)			8.5-9.0				
C1	CAE (180-199)	1級 (2810-3400)	1400	7.0-8.0	400	95-120		1305-1390 L&R 945~ S&W 360~
B2	FCE (160-179)	準1級 (2596-3200)	1250-1399	5.5-6.5	334-399	72-94	341-352	1095-1300 L&R 785~ S&W 310~
B1	PET (140-159)	2級 (1780-2250)	1000-1249	4.0-5.0	226-333	42-71	322-340	790-1090 L&R 550~ S&W 240~
A2	KET (120-139)	準2級 (1635-2100)	700-999	3.0	186-225		300-321	385-785 L&R 225~ S&W 160~
A1		3級-5級 (790-1875)	-699	2.0				200-380 L&R 120~ S&W 80~

# 主な英語の資格・検定試験の概要

試験名	実施団体	受験人数	年間実施回数	成績表示方法	出題形式: 実施方式 (*1)	受験料
Cambridge English (ケンブリッジ英検)	ケンブリッジ大学 英語検定機構	国内人数非公開 ※全世界では約250万人	2-3回	上初級~特上級(5つ) 合否、スコア(80-230)、グレード	L, R, W: 紙 S: ペア面接	PET(B1) 11,880円~ KET(A2) 9,720円~ (*5)
実用英語技能検定	日本英語検定協会	約235.5万人 (H25実績)	3回	1級~5級 合否による表示 H27よりスコア併記予定	L, R: 紙/CBT (W): 紙 (S): 面接/CBT (*2)	2級: 5,000円 準2級: 4,500円
GTEC CBT	ベネッセコーポレーション Berlitz Corporation ELS Educational Services ※一般財団法人進学基準研究機構(CEES)と共催	非公表	3回 (H27)	0-1400点	L, S, R, W: CBT	9,720円
GTEC for STUDENTS	ベネッセコーポレーション Berlitz Corporation ELS Educational Services	約73万人 (H26実績)	2回	0-810点	L, R, W: 紙 (S): タブレット(*3)	3,080円 L, R, W (5,040円 L, R, W, S)
IELTS	ブリティッシュ・カウンシル、 ケンブリッジ大学英語検定機構 日本英語検定協会 等	約3万人 (H26実績) ※全世界では240万人	約35回	1.0-9.0 (0.5刻み)	L, R, W: 紙 S: 面接	25,380円
TEAP	日本英語検定協会	約1万人 (H26実績)	3回	80-400点	L, R, W: 紙 S: 面接 (*4)	15,000円
TOEFL iBT	テスト作成: ETS 日本事務局: CIEE	非公表	40-45回	0-120点 (4技能を各0-30点で評価)	L, S, R, W: CBT	230USドル
TOEFL Junior Comprehensive	テスト作成: ETS 日本事務局: GC&T	非公表	2-3回	0-352点	L, S, R, W: CBT	9,500円
TOEIC	テスト作成: ETS 日本事務局: IIBC	約236.1万人 (H25実績) ※TOEICプログラム全世界700万人	10回	10-990点 (L, R各5-495点)	L, R: 紙	5,725円
TOEIC S&W	テスト作成: ETS 日本事務局: IIBC	約1.5万人 (H25 実績) ※TOEICプログラム全世界700万人	24回	0-400点 (S, W各0-200点)	S, W: CBT	10,260円

\*1: L=Listening, S=Speaking, R=Reading, W=Writing

\*2: Wは1級・準1級、Sは3級以上

\*3: Sはオプション

\*4: L/R, L/R/Wでも受験可能

\*5: 実施試験センターにより異なることあり

# 主な英語の資格・検定試験の出題意図・語彙数 等

試験名	目的・出題意図	語彙数	国際通用性 ①実施国数 ②主な活用地域 ③海外団体との連携
Cambridge English (PET:CEFR B1)	英語圏における日常生活に必要なとされる実践的な英語力があるかを評価する	3,000語程度 (*1)	①約130カ国 ②英国、欧州、オーストラリア、ニュージーランド ③CaMLA(米国ミシガン大学)、OET(豪州)等
実用英語技能検定 (2級: CEFR B1)	英語圏における社会生活(日常・アカデミック・ビジネス)に必要な英語を理解し、使うことができるかを評価する	4,000語程度 (*2)	①約50カ国 ②アメリカ、オーストラリア、カナダ等 ③アジア6地域7団体およびCRELLA(英国)
GTEC CBT	英語を使用する大学で機能できる(アカデミックな)英語コミュニケーション力を測る	3,000~6,000語程度 (CEFR C1まで)	②北米(ELS Educational Services)
GTEC for STUDENTS	英語によるジェネラルな状況におけるコミュニケーション能力を測る	3,000語以下 ※タイプによって異なる (CEFR B2まで)	
IELTS	英語を用いたコミュニケーションが必要な場所において、就学・就業するために必要な英語力があるかを評価する	5,000~6,000語程度(*2)	①約140ヶ国以上 ②EU諸国、オーストラリア、カナダ、ニュージーランド、アメリカ等
TEAP	EFL環境の大学で行われる授業等で行う言語活動において英語を理解したり、考えを伝えたりすることができるかを評価する	2,000~5,000語程度 (タスクにより異なる) (*2)	③CRELLA(英国)
TOEFL iBT	高等教育機関において英語を用いて学業を修めるのに必要な英語力を有しているかを測ることを目的とする。	(R) 3,000語で90.45%をカバー 5,000語で95.37%をカバー (L) 3,000語で96.22%をカバー(*3)	①約130か国以上 ②英語圏(北米、オーストラリア、ニュージーランド等)、非英語圏(ドイツ、オランダ、トルコ、韓国等)
TOEFL Junior Comprehensive	英語を母国語としない中高生の英語運用能力を世界標準で評価する。	3,000語程度 98%の単語がセンター試験に出現(*4)	①8か国(実施国数拡大中、2技能については既に50か国以上)
TOEIC / TOEIC S&W	和文・英文和訳などの技術ではなく、身近な内容からビジネスまで幅広くどれだけ英語でコミュニケーションができるかということの評価する。	4,000語以上 (*5)	①約150か国

\*1: English Vocabulary Profile Wordsに基づいてカウントした概算 \*2: BNC(British National Corpus) \*3: BNC/COCA word-family lists<第1回連絡協

議会資料より> \*4: 2006年以降のセンター試験。グローバル・コミュニケーション&テストング独自調査(2014年)

\*5: 外部リサーチャーが独自に行った調査結果「英検2級より多いがテレビ、ニュース番組よりは少ない」からの推計値



# 英語 4 技能資格・検定試験の活用事例

## ◇生徒・学生の英語力向上における活用例

<高校の例>

➤ ○○高等学校

コミュニケーション活動を重視した授業において、英検の過去問題を活用。生徒の意欲を引き出す。受験前には、英語科教員とALTで面接指導も実施。

➤ ○○高等学校

スピーチコンテストや短期留学等の取組を進める中で、英語力向上の目標として資格・検定試験を活用

<大学の例>

➤ スーパーグローバル大学等事業 採択大学

入学時から卒業時における目標を設定し、定期的にTOEFL等の試験を受け、卒業時には、実践的なコミュニケーションが可能なグローバル人材を育成

➤ ○○大学

大学で学習する際に必要とされる英語運用能力を正確に測定するテストを導入し、基準点を設け、入学者選抜の際にすると共に、入学後の習熟度別クラス編成にも活用することで、英語力向上のためのきめ細かな指導を実施

## ◇入試における換算方法等（例：出願要件、みなし満点、点数加算等）の例

<いわゆる「みなし満点」>

➤ ○○大学（一般入試）

TOEFL iBT71点以上

TOEFL PBT530点以上

英検準1級

IELTS 4技能6.5以上のスコアまたは等級を所持

している者については、大学入試センター試験の英語科目を満点とし換算して、合否判定を行う

<出願要件の一部、英語試験免除>

➤ ○○大学

【自己推薦入試等：免除】

TOEFL68点以上（経済、商学関係）

【英語運用能力特別試験：出願要件】

TOEFL68点以上

（法学・政治学、国際関係）

➤ ○○大学（一般入試）

英検2級以上：英語学力試験を免除

<点数加算の例>

➤ ○○大学

TOEFL 48点以上 5点

61点以上 10点

79点以上 25点

100点以上 50点

➤ ○○大学

英検2級以上 10点

英検準2級 8点

英検3級 6点

➤ ○○高等学校

推薦入試において英検3級以上で加点

<高校入試の例>

➤ 大阪府における取組

入学者選抜においてTOEFL iBT、IELTS、英検のスコア等を一定の得点に換算し、学力検査の英語の得点と比較して高い方の得点を学力検査の得点とする（平成29年度より開始）

## 6. 高大接統改革

# 新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた 高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について ～すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために～のポイント

本答申は、教育改革における最大の課題でありながら実現が困難であった「高大接続」改革を、初めて現実のものにするための方策として、高等学校教育、大学教育及びそれらを接続する大学入学者選抜の抜本的な改革を提言するものである。

## (1) 若者の多様な夢や目標を支える高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜への刷新

### (目指す未来の姿)

- 将来に向かって夢を描き、その実現に向けて努力している少年少女一人ひとりが、自信に溢れた、実り多い、幸福な人生を送れるようにすること。

これからの時代に社会に出て、国の内外で仕事をし、人生を築いていく、今の子供たちやこれから生まれてくる子供たちが、十分な知識と技能を身につけ、十分な思考力・判断力・表現力を磨き、主体性をもって多様な人々と協働することを通して、喜びと糧を得ていくことができるようにすること。

彼らが、国家と社会の形成者として十分な素養と行動規範を持てるようにすること。

我が国は今後、こうした目標を達成するよう、教育改革に最大限の力を尽くさなければならない。

- 生産年齢人口の急減、労働生産性の低迷、グローバル化・多極化の荒波に挟まれた厳しい時代を迎えている我が国においても、世の中の流れは大人が予想するよりもはるかに速く、将来は職業の在り方も様変わりしている可能性が高い<sup>1</sup>。そうした変化の中で、これまでと同じ教育を続けているだけでは、これからの時代に通用する力を子供たちに育むことはできない。

この厳しい時代を乗り越え、子供や孫の世代に至る国民と我が国が、希望に満ちた未来を歩めるようにするため、国は、新たな時代を見据えた教育改革を「待ったなし」で進めなければならない。

<sup>1</sup> アメリカの研究者による予測によれば、「2011年にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業時に、今は存在していない職業に就く」とも言われている。

## ①高等学校教育改革

- ◆ **学習指導要領の抜本の見直し、アクティブ・ラーニングの飛躍的充実。**
- ◆ **教育の質の確保・向上を図り、生徒の学習改善に役立てるため、「高等学校基礎学力テスト(仮称)」を導入。**

## ②大学入学者選抜改革

- ◆ **各大学の個別選抜は、アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)において明確化。多面的な選抜方法をとるものとする。**
- ◆ **「知識・技能」を基盤として「思考力・判断力・表現力」を中心に評価する「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」を導入。**

## ③大学教育改革

- ◆ **アドミッション・ポリシーのほか、カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施方針)、ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)の一体的策定・公表、カリキュラム・マネジメントの確立。**
- ◆ **アクティブ・ラーニングへと質的に転換。**